

授業実践報告～Logical English Reading を用いて～

「多様な意見を受信・発信」し、「論理的思考力」を磨く英語教育

履正社高等学校 服部 潤 先生

【Logical English Reading を採択した経緯と理由】

本校は高校3年までに英検2級の取得を目指す生徒が大半を占めている。中には準1級の取得を目指している生徒もあり、各学年数人は準1級に合格する。その一方で英語が大の苦手という生徒も少なくない。そのような生徒たちの英検などの外部英語検定試験の結果を分析してみると「ライティング(意見論述や要約)」が最も到達度の差が激しく、苦手としている生徒が多いことが判明した。そこで、いざライティング(特に意見論述)の練習機会を増やしてみた。しかし生徒から頻繁に出てきた発言は「ライティングトピックに対する意見を下支えする理由が思いつかない」であった。その解決策を探す中、Logical English Reading(三省堂)はライティングトピックに関する賛成および反対の意見文やコラムが掲載されており、そのトピックに対する意見や理由を賛否の両立場から読み取って吸収し(Reading)、それらを参考にしながら自身の意見を書く(Writing)、場合によっては自身の意見を話す(Speaking)というまさに本校生徒に必要な練習の要素が詰まっている絶好の教材であった。このようなことを本教材に期待し、採択および授業での活用に至る。

【授業実践 ～生徒の活動～】

<Mind Map で思考を整理し、表現する>

写真1はトピックに対する意見を英語で書き始める前に、自身の思考を整理するために使っているMind Mapである。ここでは常にOREO(Opinion, Reason, Example, Opinion ※本冊は「AREA」と記載)の構成を意識させ、まずは日本語でMapを埋める。完成したものを参考に生徒が本教材の別冊ノートにライティングしたものが写真2である。本校のように論理的な思考やそれを整理するのがあまり得意ではない生徒にはMind Mapは必須アイテムかもしれない。

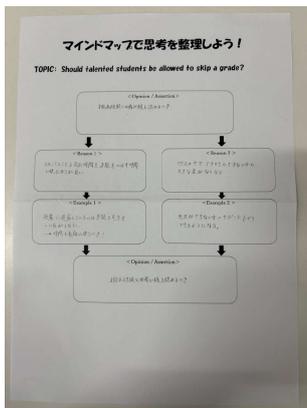


写真1 Ver.1

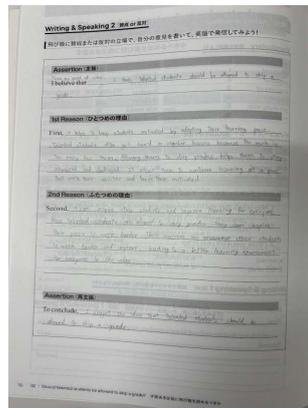


写真2 Ver.1

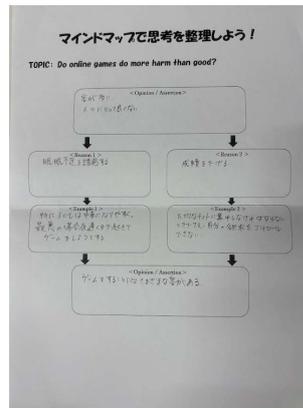


写真1 Ver.2

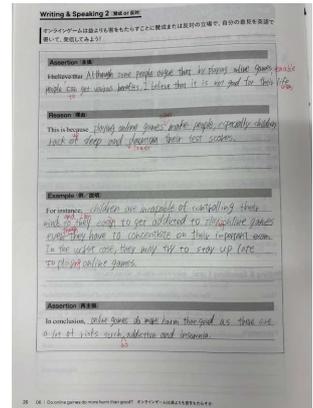


写真2 Ver.2

<意見を受信・発信するグループワーク>

写真3と4は Logical English Reading Level 2 の Unit 1 “Should colleges start in fall?”を題材に取り組んだ際のグループワークの様子である。生徒たちは本教材内の同トピックに関する賛否両立場の意見文を読み(Reading)、その後自身の意見を書いてきた。(Writing)

なお、自身の意見文における英文法などのミスは英文添削 AI で訂正済みである。

グループワークではお互いの意見文を交換して読ませてもらい(Reading)、その読んだ内容をグループのメンバーに英語で伝える(Speaking)という活動を行った。生徒は意見文の内容を英語で伝えることに難しさを感じながらも、多様な観点から書かれたクラスメイトの意見を知ることの楽しさや新しい気づきを実感したようだ。



写真3



写真4

<Graphic Organizer & Information Gap>

写真5と6は Logical English Reading Level 1 の Unit 6 “Do online games do more harm than good?”における本教材内の賛否両方の意見文を生徒が読み(Reading)、その意見文を単に読むのではなく、その文章の要旨や内容を図表やキーワードとなる英語(日本語の使用も可)でまとめ、そのまとめを見ればその

文章が何を述べているのか分かるようにするといった Graphic Organizer という活動を行った際に生徒が実際に作ったものである。写真7～9は以下に示す活動の様子である。

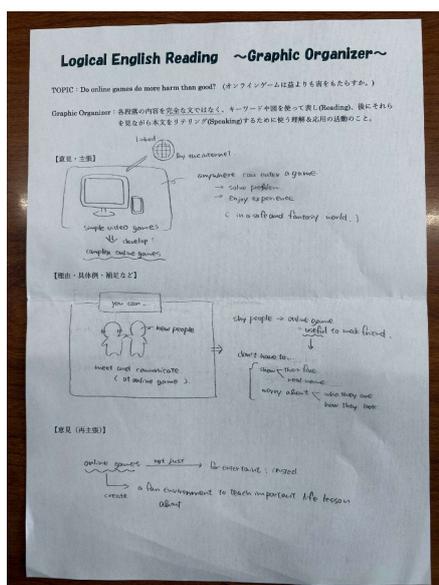
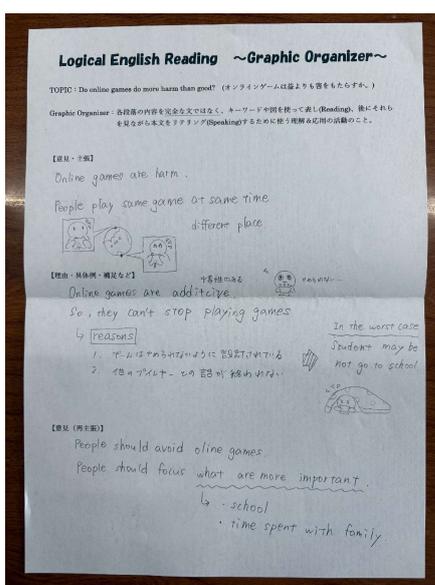


写真5 (賛成意見文 ver.)



を読んでもらう。そして各自が自身の読んだ意見文を Graphic Organizer にまとめ、その後例えば生徒 A であれば賛成の意見文がどんな理由をもって賛成の立場を取っているのかを自身が作成した Graphic Organizer を見ながら生徒 B に英語で説明し(Speaking)、その後は生徒 B も同じ取り組みをするという一部 Information Gap を用いた授業展開に仕立てた。

生徒曰く、Graphic Organizer にまとめる時はより一層頭を使うようで、かなり集中して読解することである。また、作成した Graphic Organizer を見ながら自身の読んだ文章の内容をうまく英語で伝えられた時には嬉しさを感じるようである。このような活動を行うと単調な授業にならず、楽しく頭を使いながら文章を読み、それを参考に自身の意見を話したり、書いたりという練習にスムーズに持ち込めるのではないだろうか。



写真7



写真8



写真9 (教室全体の風景)

【実践の成果と課題】

上記のような活動を行うことで、インプットとライティングやスピーキングを含めたアウトプットの練習機会がバランスよく取れるだけでなく、生徒主体の授業を展開することができる。生徒はいきいきと英語を読み、書き、話し、聞くようになり、このような英語の授業は楽しいと言ってくれる生徒が増えていると感じる。しかし、同時にその読解や意見論述の Accuracy(正確さ)をいかに担保し指導するかは、大学や英検受験を鑑みても永遠の課題だと感じている。

【次年度以降の指導に向けて】

ライティングなどのアウトプット力の養成には相当数の練習や時間が必要である。それと同時に良質なインプットの機会を増やし、その手法を研究するという事も避けては通れない。すぐさまの結果を求め過ぎず、次年度以降も根気強く、多くの生徒の課題であるライティングをはじめとしたアウトプットの練習機会を持ち続ける必要があるであろう。

<プロフィール>



はっとり じゅん
服部 潤 先生（履正社高等学校）

2023年度より現任校に勤務。今年度(2025年度)は高校3年の担任。

「楽しみながら伸ばす言語としての英語」を全体的な授業づくりのテーマとし、複数の英語教育研究会に所属しながら、受験科目としての英語指導に偏らず、4技能のバランスの良い実用的な英語力の養成に力を入れている。